

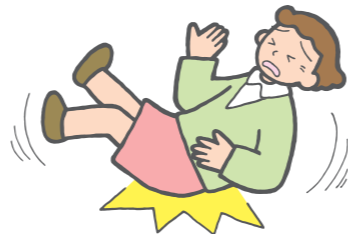
大腿骨頸部/転子部骨折の作業療法のご案内

大腿骨頸部/転子部骨折の作業療法 実践の流れ

★シートご利用にあたって

Q1 なぜこのようなシートを作ったの？

A1 大腿骨頸部/転子部骨折の作業療法について、その具体的な役割や介入方法を時期ごとに示すことで国民に作業療法を理解していただき、安心して作業療法サービスを選択してもらえるようにするためです。そして積極的な作業療法士の介入を促すためです。



Q2 このシートの特徴は？

A2 「ご案内」は、ご本人やご家族などから作業療法の役割や介入方法を理解していただきやすいように、「実践の流れ」は作業療法士の介入する項目についてまとめております。「実践の流れ」は、チェックシートとしてもご利用いただけます。

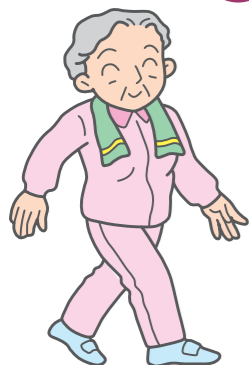
Q3 このシートは誰が使うの？

A3 治療や訓練、指導にあたる作業療法士はもとより、医師やリハビリテーションに関与する多くの職種の方々にもご利用いただきたいと思っております。もっとも有効活用していただきたい方は、ご本人とその家族です。



Q4 もっと詳しい資料はあるの？

A4 作業療法マニュアルNo38「大腿骨頸部/転子部骨折の作業療法」を作成しています。そちらを是非ご一読ください。本シートはその一部として作成しております。関心のある方は(社)日本作業療法士協会ホームページをご覧ください。



★謝辞 本シート作成にあたり、アンケートにご協力いただいた全国12施設の作業療法士の皆さん、そして作成作業に直接ご協力いただいた2施設の作業療法士の方々に心より感謝感謝いたします。

《事業担当》

(社)日本作業療法士協会 保健福祉部 保健福祉作業療法普及委員会

〒111-0042 東京都台東区寿1-5-9 盛光伸光ビル 7階

TEL: 03-5826-7871 FAX: 03-5826-7872 URL <http://www.jaot.or.jp/>

平成22年3月

大腿骨頸部/転子部骨折の作業療法

普及資料の作成

ご本人・家族向け

大腿骨頸部/転子部骨折の作業療法のご案内

作業療法士向け

大腿骨頸部/転子部骨折の作業療法 実践の流れ



大腿骨頸部/転子部骨折を受傷した(または受傷の恐れがある)「人」の支援には、予防期から急性期、回復期、維持期(生活充実期)のあらゆる時期で作業療法が必要であり、作業療法士が関わることで対象者のQOLを向上できるものである。

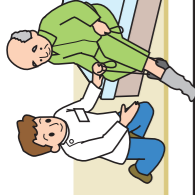
(作業療法マニュアルNo38 大腿骨頸部/転子部骨折の作業療法 はじめに より抜粋)

(社)日本作業療法士協会 保健福祉部

※ ご本人・ご家族向け

大腿骨頸部/転子部骨折の作業療法のご案内

作業療法士は、予防期から維持期までそれぞれの時期に応じた、身辺処理や社会的適応能力などの様々な障害を予防・改善して活動的に過ごせるように、ご本人・ご家族や他職種と協力しながら、治療・援助を行っています。



作業療法の支援の時期と目的	生活安定期 (予防期)	手術前後の時期 (急性期)	手術直後の時期	手術直後	日常生活活動作向上練習期	退院準備期	生活充実期 (維持期)
作業療法士がいる場所	・地域包括支援センター ・保健センター等 ・地域の病院、老人保健施設等	・病院 (一般病棟)	・病院 (一般病棟)	・病院 (一般病棟)～回復期リハビリテーション病棟 ・老人保健施設	・病院 (療養型病棟) ・老人保健施設 ・特別養護老人ホーム ・訪問・通所リハ・通所介護事業所 ・地域包括支援センター	・病院 (療養型病棟) ・老人保健施設 ・特別養護老人ホーム ・訪問・通所リハ・通所介護事業所 ・地域包括支援センター	・病院 (療養型病棟) ・老人保健施設 ・特別養護老人ホーム ・訪問・通所リハ・通所介護事業所 ・地域包括支援センター
作業療法の支援内容	<p>転倒や閉じこもりを防止し、活動的に過ごします。</p> <p>作業療法士は転倒や閉じこもりを防止し、好きな活動を無理なく安全に行えるよう支援します。</p> <p>◎ 転倒予防教室や、生涯学習、公民館活動での転倒予防の啓発や相談などを行います。</p> <p>具体的にには・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 楽しみ、役割活動、社会参加状況を確認 ● 運動や生活習慣の確認と、疾病や身体的状態に合わせたアドバイス ● 住環境の確認、転倒予防のための工夫を提案 ● お薬の確認 (薬剤の服用や多剤内服をしていくと、転倒しやすくなることがかかります) 	<p>寝たきりやせん妄を予防し、可能な活動を提供します。</p> <p>具体的にには・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 病前生活、排泄習慣、睡眠リズム、認知機能等を確認 ● 不安の軽減、心理的安定を支援 ● これからの生活を一緒に考える ● 部屋、ベッド周辺の環境調整 (日付けや自分の状況を分かりやすく掲示する、テレビやテレビのリモコンを操作しやすいように調整する、等) ● 全身状態や身体機能を確認して、起き上がり等の基本動作練習や座位での活動を行う ● 誤嚥せず安全に食事を摂る練習 ● 排泄動作の練習 ● 着替え、整容動作の練習 ● 家族への対応方法などのアドバイス 	<p>手術の様式や痛み、全身の状態に注意しながら、可能な活動を検討し、提供します。</p> <p>具体的にには・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 手術や、検査の様子がら、全身状態や安静度、運動制限を確認 ● 不安の軽減、心理的安定を支援 ● 部屋、ベッド周辺の環境調整 ● 気をつけるべき動作の伝達 ● 起き上がり、立ち上がり練習、座位の活動支援 ● 移乗動作の練習 ● 排泄動作の練習 ● 誤嚥せず安全に食事を摂る練習 ● 家族へ対応方法などのアドバイス 	<p>骨癒合の状態や全身状態を確認しながら日常生活の自立を目指します。ベッドから離れた生活を指します。</p> <p>具体的にには・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 退院後の生活意向調査 (本人・家族へ) ● おいしく食事が食べられるように支援 ● 着替える練習、日中は着替えて活動的に過ごせるように支援 ● ベッド⇒車椅子など、移乗動作の練習 ● ポータブルトイレや病棟トイレを利用する練習 ● 整容動作やおしゃれをする練習 ● 靴下や靴の着脱練習 ● 入浴動作、浴室・浴槽の出入りの練習 ● 荷重に合わせた歩行補助具使用のアドバイス (例：車椅子⇒歩行器⇒多点杖⇒T字杖) 	<p>いろいろな動作の獲得を目指す時期 (回復期)</p> <p>自宅などの住み慣れた地域で、再び生活ができるよう準備する時期です。</p> <p>作業療法士は日常生活動作や活動能力の更なる向上を目指し、退院後の生活の準備を支援します。</p>	<p>骨癒合の状態や全身状態を確認しながら、退院に向けた準備をします</p> <p>具体的にには・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自宅を想定した日常生活動作の練習 ● 調理、掃除、洗濯などの練習 ● 退院前訪問 (2回目) で、日常生活動作のシミュレーションを行う ● 自動車乗降練習 ● 外泊、外出練習 ● 自主練習のアドバイス ● 家族へのアドバイス ● 訪問リハビリや通所リハなどのサービス利用の検討 ● 地域包括支援センターやケアマネジャー、次に利用する施設へ情報提供 	<p>再転倒に気を付けながら、趣味や役割を持って元気に過ごします。</p> <p>作業療法士は生活環境を整備し、安全で楽しい生活スタイルを提案し、また閉じこもりや転倒等を防ぎ、社会参加ができるよう支援します。</p> <p>◎ 骨癒合の状態や全身状態、生活状況を確認しながら、充実した生活を支援します。</p> <p>具体的にには・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行っても良い動作、注意すべき動作の伝達 (手術によっては、深くしゃがみ込んだり、股関節を内側に強くひねるような動きには注意する必要があります) ● 排泄、入浴、移動など日常生活動作、動線の確認、練習 ● 調理、掃除、洗濯などの動作の確認、練習 ● 生活環境調整、道具の安全な使用練習 ● 日々の生活リズムの相談・助言 ● 趣味・役割活動支援 ● 屋外活動、社会参加支援 ● 公共交通機関の利用練習 ● やりたいたい活動ができるようサービス情報の提供 ● 自主練習のアドバイス ● 家族へ介護方法のアドバイス・相談 ● サービス提供事業所への助言、相談

(作成：(社)日本作業療法士協会 保健福祉部 2010.2)

※ 作業療法士向け

大腿骨頸部/転子部骨折の作業療法 実践の流れ

※ 医師や看護師、理学療法士など、他職種と連携した支援となるように配慮すること。
 ※ 次の時期を担当する作業療法士やスタッフに申し送りを作成し、効果的に支援できるよう心がけること。

作業療法の支援内容	予防期	急性期	回復期	維持期(生活充実期)
作業療法士がいる場所	・地域包括支援センター ・保健センター等 ・地域の病院、老人保健施設等	・病院 (一般病棟)	・病院 (一般病棟)～回復期リハビリテーション病棟 ・老人保健施設	・病院 (療養型病棟) ・老人保健施設 ・特別養護老人ホーム ・訪問・通所リハ・通所介護事業所 ・地域包括支援センター
作業療法の支援内容	<p>転倒や閉じこもりを防止し、好きな活動を無理なく安全に行えるよう支援する。</p> <p>◎ 転倒予防教室や、生涯学習、公民館活動での転倒予防の啓発、相談、支援を行う</p> <p>□ 運動や生活習慣の確認と、疾病や身体状態に合わせたアドバイス</p> <p>□ 転倒予防の啓発</p> <p>□ 住環境の確認、転倒予防のための工夫を提案</p> <p>□ 楽しみ、役割活動、社会参加状況の確認</p> <p>□ 転倒予防自己効力感の育成</p> <p>□ 薬剤の服用や多剤内服等、服薬状況の確認</p>	<p>他職種と連携しながら、寝たきりによる身体機能低下を予防し、認知・精神機能を維持して早期に日常生活動作が自立できるよう支援する。</p> <p>◎ 手術様式や痛み、全身状態に注意し、可能な活動を検討し、提供する</p> <p>◎ 手術直後</p> <p>◎ 手術前の時期</p> <p>◎ 寝たきりやせん妄を予防し、可能な活動を提供する</p> <p>基本的確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 骨折分類、所見、治療計画 □ 検体検査所見 (栄養状態、電解質異常、貧血、炎症) □ 全身状態 □ 安静度、運動負荷制限 □ 病前生活状況、病前ADL、趣味、役割活動 □ 認知機能、せん妄の有無 □ 合併症、既往歴 <p>基本的確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 手術所見 □ 骨癒合の状態 □ 荷重制限、運動負荷制限、禁忌動作 □ 検体検査所見 (栄養状態、電解質異常、貧血、炎症) □ 全身状態の確認 □ 合併症、既往歴 <p>各時期共通の支援項目</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 安静肢位確認 (非骨神経麻痺防止) □ 患側下肢機能評価 □ 健側上下肢機能、体幹機能評価 □ 起居動作練習 □ 患側不荷重での立ち上がり動作 □ 誤嚥せず安全に食事を摂る練習 □ 排泄動作の練習 □ 更衣動作、整容動作の練習 □ 座位、ベッド上での作業活動支援 □ 骨折後の生活を一緒に検討 	<p>日常生活動作や活動能力の更なる向上を目指し、退院後の生活の準備を支援する。</p> <p>◎ 骨癒合の状態や全身状態を確認しながら、退院に向けた準備を行う</p> <p>◎ 日常生活活動作向上練習期</p> <p>◎ 骨癒合の状態や全身状態を確認しながら、退院に向けた準備を行う</p> <p>◎ 退院準備期</p> <p>◎ 骨癒合の状態や全身状態を確認しながら、退院に向けた準備を行う</p> <p>◎ 退院準備期</p> <p>◎ 骨癒合の状態や全身状態を確認しながら、退院に向けた準備を行う</p>	<p>再転倒に気を付けながら、趣味や役割を持って元気に過ごします。</p> <p>作業療法士は生活環境を整備し、安全で楽しい生活スタイルを提案し、また閉じこもりや転倒等を防ぎ、社会参加ができるよう支援します。</p> <p>◎ 骨癒合の状態や全身状態、生活状況を確認しながら、充実した生活を支援します。</p> <p>具体的にには・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行っても良い動作、注意すべき動作の伝達 (手術によっては、深くしゃがみ込んだり、股関節を内側に強くひねるような動きには注意する必要があります) ● 排泄、入浴、移動など日常生活動作、動線の確認、練習 ● 調理、掃除、洗濯などの動作の確認、練習 ● 生活環境調整、道具の安全な使用練習 ● 日々の生活リズムの相談・助言 ● 趣味・役割活動支援 ● 屋外活動、社会参加支援 ● 公共交通機関の利用練習 ● やりたいたい活動ができるようサービス情報の提供 ● 自主練習のアドバイス ● 家族へ介護方法のアドバイス・相談 ● サービス提供事業所への助言、相談

(作成：(社)日本作業療法士協会 保健福祉部 2010.2)